

沖縄県南部連合文化協会創立20周年記念公演

～心の琴線にふれる 古箏の魅力～

ウー・ファン

中国古箏奏者

「伍芳の世界」



伍 芳(ウー・ファン)
～中国古箏奏者～

上海生まれ。9才にして中国古箏の第一人者、王昌元氏に師事し早くから頭角を現した。中国で最も難関といわれる上海音楽学校に入学。郭雪君氏の指導を受け、古箏を中心にピアノや音楽基礎理論を幅広く学び1990年7月同校を首席で卒業し来日。1996年東芝EMIよりアルバム「箏心」デビュー。

中国古箏の音色は大陸的なおおらかさと、心を包み込むような優しさに満ちているが、この魅力を最大に活かすには高度な演奏技術が求められる。伍芳の奏でる中国古箏の素晴らしさは、日本における中国楽器ブームの先駆けとなった。現在神戸を拠点にコンサート、テレビ、ラジオに数多く出演。中国の古典、現代曲のほか自作の曲を取めたアルバムも通算10枚発売されている。さまざまなジャンルのアーティストと共演も多く南こうせつ、伊勢正三、東儀秀樹(雅楽)、中西俊博(ヴァイオリン)、木乃下真一(津軽三味線)、西村由紀江(ピアノ)溝口肇(チェロ)、さらに狂言、人形浄瑠璃文楽、和太鼓と共演、さだまさし原作の映画「精霊流し」に音楽で参加等、多彩な活動を繰り広げている。



富田めぐみ ～演出家～

八重瀬町富盛の出身。幼い頃より芸能に親しみ、ラジオ、テレビ、舞台、映画とさまざまなメディアで活躍。舞台出演、演出助手を務めながら沖縄芝居、歌劇歌舞劇、舞踊劇、組踊などを学ぶ。文化庁新進芸術家海外派遣制度(演劇部門)在外研修員として渡仏し研修終了後、南仏アビニョン演劇祭OFFにて演出家として本格デビュー。琉球芸能の若手実演家と共同で制作する作品は、海外の演劇祭や、シドニーオペラハウスなど伝統ある劇場から公式招聘を受け、その特異な演劇空間は高い評価を得ている。演出、公演コーディネーターとしてこれまでアジア、欧州、アフリカなど世界20都市を超える公演実績を持ち、自らも役者として舞台、映画、テレビ出演も多く、まさに演劇芸術の申し子とも言えよう。

琉球芸能という大地に根をはり、若手実演家と共に伝統を踏まえながら現代の息吹を伝える作品を通して、世界と沖縄をつなぐ活動を続けている。

伍芳さんの沖縄公演でも琉球舞踊とのコラボレーションも企画しており、古箏という楽器を軸に中国と沖縄、舞台と客席とが通い合うものを生み出せるような構成で見応え聴き応えのある舞台が期待される。



林 正樹 ～ピアニスト～

1978年東京生まれ。5才よりピアノを始め、中学入学後ポピュラー音楽に目覚め独学で音楽理論の勉強を始める。大学在学中の1997年12月に民謡歌手伊藤多喜雄の南米(パラグアイ、チリ、アルゼンチン)ツアー、国内ツアーに参加しプロ活動を開始。温かみのある感性を持って情感豊かな音の世界を築いており、現在は自作曲を演奏するソロピアノでの活動や、自己のカルテット「STE WMAHN」中心に多くのユニットに在籍し、さまざまなジャンルのアーティストと共演する等幅広く活動している。最近では韓国のチェリスト、ソン・ヨンフンと組んで韓国、香港でのコンサートや、「Salle Gaveau」のメンバーとしてヨーロッパでのツアー等活動の場を国外にも広げている。伍芳さんのコンサートにも度々参加し、彼女の奏でる中国古箏の深く豊かな魅力と響き合い素晴らしい舞台を見せてくれる。NHK「ハートネットTV」「ドキュメント20min」などのテーマ音楽も担当。

オリジナル曲発表

今回のコンサートを記念し、みやぎ たかお作詞、伍芳作曲の「古箏のしらべ」をコンサート当日に発表する。風雅な歌詞、伍芳さんの人柄をしのばせる温かく気品に満ちた美しい調べに乞うご期待！

古箏のしらべ

(作詞:みやぎ たかお 作曲:伍芳)

- | | |
|--|--|
| 1 行きとおる 海路の果てに
海洋しぶき風にのり
青柳糸につながれて
華麗の文化見えてきた
古箏のしらべ 海の道 | 2 千歳経る 伽藍のごとく
鈴をならして芸を呼ぶ
音に遙かな風誘う
文化が映える情け歌
古箏のしらべ 縁結び |
| 3 南方の みどり差し添え
華麗な文化連なりて
三線と箏の合いの芸
互いに織りなす奥の技
古箏のしらべ 弾む音 | 4 海超えて 友の掛け声
ともに語ろう芸の道
ともに歩もう芸の道
文化の華が交ざり合う
古箏のしらべ 虹の橋 |